

いはす、

〔桐火桶〕山かげのけしき物あはれなるゆふまぐれに、日ぐらしのなきたるなどぞおもひ出られ侍る、

蟬母

〔重修本草綱目啓蒙二十八〕化生蟲 蚱蟬略 ○中
蟬母ハハルセミマツムシ備前、筑前、但州、防州 クダマキ常州 三月ニ山谷ノ樹上ニ集リ、鳴コト甚聒

蟪蛄

〔重修本草綱目啓蒙二十八〕化生蟲 蚱蟬略 ○中
蟪蛄ハチツゼミマツムシ豫州、松山 ヒグラシ同上、吉田 五月ニ早朝ヨリ、夕方マデ鳴キツバク

聲ニ抑揚アリ、ソノ蟬ハ形小ニシテ淡黒色、羽ハスキトラレリ、弘景四五月鳴而小紫、青色者蟪蛄也ト云、群芳譜、莊子ニ謂蟪蛄夏蟬ト云、秘傳花鏡ニ、夏曰蟪蛄ト云、等ノ説ニ從フベシ、時珍以テ蛸蟪ト爲ルモノハ是非ズ、

蟬雜載

〔異本枕草子〕六月廿日ばかりに、いみじうあつきに、せみの聲のみたえずなきいだして、風のけしきもなきに、いとゞこだかき木どものおほかるが、木くらぐあをきなかより、きなる葉のやうやうひるがへりおちたるこそ、すゝるにあはれなれ、

〔四季物語六〕五月雨の晴間なき空も、いつしか名残なくなりて、雲の峯へ立ち重なり、いみじき金岡が手にも、かうやうには、たくみ得難う、梢の蟬の聲々かしがましと、枕上うるさけれど、實にや

白蠟蟲

里のかたへの、こほくと鳴る唐臼の音とは、やう變りたり、
〔重修本草綱目啓蒙二十七〕化生蟲 白蠟略 ○中
水蠟樹ニ生ズル蟲ノ巢ノ蠟ナリ、水蠟樹ハ俗名イボタ、コバメバナ阿州 ウシタ、キ土州 子ズ
ミノマクラ雲州